

国語

受験 番号		氏名	
----------	--	----	--

一、次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(解答は所定の解答欄に記入すること)

この部分は、著作権の関係で公開できません。

この部分は、著作権の関係で公開できません。

(津野海太郎『読書と日本人』岩波書店、二〇一六年、一三七〜二四〇頁より抜粋)

一部表記を改めて出題している。

問一 傍線部(A)「オトロ(えた)」、(B)「マ」、(C)「ボウトウ」、(D)「メイメツ」、(E)「フクザツ」のカタカナをそれぞれ漢字に改めなさい。

問二 傍線部(a)「兼(ねる)」、(b)「粘土」、(c)「獣皮」、(d)「分岐」、(e)「領域」の漢字の読み方をそれぞれひらがなで記しなさい。

問三 傍線部(ア)「ケイタイ」と同じ漢字表記になる語句を、文中の傍線部(イ)(ウ)(エ)から一つ選びなさい。

問四 空欄Xに入る最も適切な語句をア〜エから一つ選びなさい。

ア しかし イ したがって ウ また エ さらに

問五 空欄Yに入る最も適切な語句を文中から二字で抜き出しなさい。

問六 空欄Zに入る最も適切な語句をア～エから一つ選びなさい。

- ア 抹消    イ 諦念    ウ 共存    エ 成否

問七 傍線部①「めど」の意味として最も適切なものをア～エから一つ選びなさい。

- ア 実力    イ 勝敗    ウ 見当    エ 決意

問八 傍線部②「身近な自然物」の具体例を文中から四字以内で一つ抜き出して答えなさい。

問九 傍線部③『学問のすゝめ』の作者をア～エから一つ選びなさい。

- ア 国木田独歩    イ 巖谷小波    ウ 福沢諭吉    エ 永井荷風

問十 傍線部④「異質な本」と同じ内容を指す語句を文中から四字以内で抜き出しなさい。

問十一 傍線部⑤「たやすく」の辞書的な意味を答えなさい。

問十二 傍線部⑥「これまでは一筋道だった本の歴史が二方向に分かれ」た、とはどういうことか。本文の内容に即して七十字前後で説明しなさい。

問十三 本文の説明として正しいものに○を、誤りを含むものに×を記しなさい。

- 1 常体と敬体の両方が混在した文体である。
- 2 二十一世紀初頭のメディア革命が長続きしないことを予見している。
- 3 一般的に「電子本元年」と呼ばれた時期から、電子本は日本人の日常生活に根ざし、人々の意識を変容させたという見解を述べている。

二、次の問いに答えなさい。

問一 次の文章の空欄に入る最も適切な語句を、あとのア～クから一つ選びなさい。

- 1 過去のことは [ ] に流し、未来に向かって力を合わせよう。
  - 2 運良く渡りに [ ] の申し出があつて助かった。
  - 3 [ ] 無し草のような生活を続けるのがつらくなってきた。
  - 4 ライバル会社の失敗を他山の [ ] として、自社の業務内容を見直す。
- ア 石                    イ 土                    ウ 根                    エ 葉  
オ 水                    カ 羽                    キ 船                    ク 車

問二 次の誤りを含む文章を、それぞれ正しい文章に改めなさい。

- 1 「先輩、今日のご苦労様でした。」
- 2 「私では役不足ですが、精一杯努力いたします。」
- 3 彼は体調を壊して寝込んでいる。
- 4 まず最初にあいさつを交わした。